

この冬、北陸地方から北の地域では、例年にない積雪になっています。岡山市内では雪がちらつく日はあっても積もることはほとんどありません。雪国の皆さんのご苦労は、私たちの想像をはるかに超えていることでしょう。とはいえ、岡山でも寒い日がありますし、インフルエンザも猛威を奮っています。どうぞお身体を大切になさってください。

＃星っさんコーナー(その 108)

「ありがたき吾が師の恩」(その 3)

(我が人生の大恩人・榊本辰郎先生)

顧問 星島明郎

2002 年 2 月 22 日は、私の恩師と言うよりも、私たち夫婦にとって人生の大恩人と思っている榊本辰郎先生の亡くなられた日です。2 づくしのこの数字は、15 年を経過した今でも私の頭から消えることはありません。この度、「星っさんコーナー」で先生のことを書こうと思いついて、その資料の一部にと、その時寄稿した山陽新聞の切り抜きを読み返してみたのですが、今の私の気持ちをそのまま表現している文章なので、そっくりノーカット原文のまま次に載せたいと思います。

「榊本辰郎先生を悼む」—岡山音楽界育成に情熱 (2002.3.1. 山陽新聞朝刊)

星島明郎(岡山フルートの会会長、中国短期大学教授)

岡山大学交響楽団、岡山放送交響楽団、岡山市ジュニアオーケストラ、倉敷管弦楽団などの創設・育成に多大の功績を残され、多くの人々から父親のように慕われていた榊本辰郎先生が、2 月 22 日突然逝かれました。つい 1 カ月前、岡山シンフォニーホールでお元気なお姿に接し、岡山大学同窓会の新年会では、ショパンのウオッカを自宅から持参されて、ご機嫌で談笑されていた先生が。

先生は 1954 年、家業である榊本グループの継承のため帰岡され、その年から私の母校である岡山大学教育学部音楽教室の非常勤講師としてオーケストラや指揮法を担当されました。ご専門のチェロは勿論のこと、あらゆる楽器の奏法に精通されていた先生は、私の最初のフルートの師でもありました。その後、先生の演奏仲間でもあった関西切っつのフルート奏者伊藤晋先生を紹介してくださり、完全に私の進むべき方向を決定づけて下さいました。

当時の岡大音楽教室は、県下で唯一の音楽教育の為の機関として、活発な演奏活動もしていました。主任教授の水野康孝先生の発案で、総合芸術であるオペラで学生たちに音楽教育を施そうとされた時代です。教室あげてオペラに取り組みましたが、その先頭にたって指導してくださったのが榊本先生でした。オーケストラに対する豊富な経験と知識は、それからの岡山の音楽界では無くてはならない先生として、あらゆる方面でご活躍くださいました。

当時から、先生のお宅はいつも音楽に溢れていました。夜を徹して室内楽を楽しんだことも何度となくありました。先生はお得意のチェロを抱えて、音楽を作る面白さ、鑑賞する楽しさを身をもって教えてくださいました。とりわけ先生の真骨頂は敬愛されていた斎藤秀雄先生ゆずりの指揮法を駆使して、音楽の真髄をつき、その妙味を味わわせてくれるときのご熱弁でした。

先生は、演奏会へもよく同行してくださいました。地方では世界的な音楽家の演奏があまり聴けなかった頃、ランパルやベーカーの初来日、そしてギャルドーやレニングラードフィルの大阪公演の時など、ご自慢の自家用車ヒルマンミンクスに同乗させてもらい、途中楽しい音楽談義を聴かせていた

だきながらの行程が、とても懐かしく思い出されます。又、先生が何度となく計画されたヨーロッパ・ミュージックツアーに、二度ご一緒させて頂きました。ザルツブルグ、ミュンヘン、ルツェルン、バイロイトなどの音楽祭で強烈な感銘を受け、真の音楽鑑賞の素晴らしさを肌で感じさせて頂いたことが、その後の私の音楽生活にどれだけプラスになったか計り知れません。

先生は実に博学で、私達のために書き下ろしてくださった「若い演奏家に贈る本(演奏会, リサイタルを成功させるためのアドバイス)」と、「たいがく(楽隊)漫談」という小冊子からは、先生の、クラシック音楽に対するしっかりとしたお考えと情熱が伝わってきて、いつも座右に置いて、繰り返し読ませて頂いております。

10 年前、先生に薫陶を受けた者たちが相集い、先生の指揮による「喜寿記念コンサート」を岡山シンフォニーホールで開催しましたが、先生はこれを最上の喜びとされていました。そして最近まで「米寿のコンサートをやるぞ」と親しい人たちに話されており、音楽に対する情熱は、まだまだ失われていなかったようです。その米寿にあと 1 年というところで他界されました。残念ながら晩年は二度にわたる大病の後遺症で、十分にご指導いただけなかったのが、とても悔しく思われます。定位置になっていた岡山シンフォニーホールの左一階バルコニーに先生のお姿が見えなくなるのは誠に寂しい限りですが、どうかこれからは天国から「しっかりやっとのー」と声をかけて、私たちを励まして下さい。ご冥福を心からお祈りいたします。(2002. 2.27)

(後記)

幼くして父を亡くした私は、榎本先生(通称マッサン)とは、まるで本当のおやじさんのような思いでお付き合いさせて頂きました。若い頃の先生は愛車ヒルマンで方々へ連れて行って下さり、私達の家族にヨーロッパ旅行の楽しさを教えてくださいました。又お元気なときは全く初心者の私に、その後の心身とも健康の源となるゴルフの楽しさも手ほどきして下さいました(当然のことながらコースに出ると、マナーにだけはとてもうるさく厳しかったですが)。

山陽新聞の追悼文の中にも書かせて頂いた「若い演奏家に贈る本」(この本の出版にあたっては、初稿の校正を手伝わせて頂きました)と、「たいがく(楽隊)漫談」は何冊か持っていますので、お読みになりたい方はどうぞお気軽に星島までお申し出ください。

#演奏会情報&チラシの会報への同封について

演奏会情報は 2 月 27 日(金)までに 谷川さん(会報係チーフ)に連絡してください。また、演奏会のチラシを会報封筒に同封・郵送(原則として奇数月のみ)を希望される場合は、A4 版はそのままで(A3 版は二つ折りにして)長谷川楽器店に持参してください。その際、必ず事前に会報係チーフに連絡し、会報発送数を確認してください。会報係チーフ連絡先: qzb03677@nifty.com(谷川さん)

#チラシをホームページに掲載する方法について

演奏会のチラシを岡山フルートの会のホームページに掲載してほしい会員は、チラシを折らないでホームページ係チーフ(柴田さん)に郵送してください。なお、チラシを PDF 化できる会員につきましては、以下のアドレスにファイルを添付してお送りください。

ホームページ掲載用チラシ送付先: 柴田 聡さん

〒703-8282 岡山市中区平井 1126-52 okayama-flute@mail.goo.ne.jp

【会報の封筒詰めのお知らせ】

3 月号の会報の封筒詰めを、3 月 3 日(火)午後 7 時から長谷川楽器店 3 階ホールで行います。会員の皆さまには、ぜひ、封筒詰めのお手伝いをお願いします。